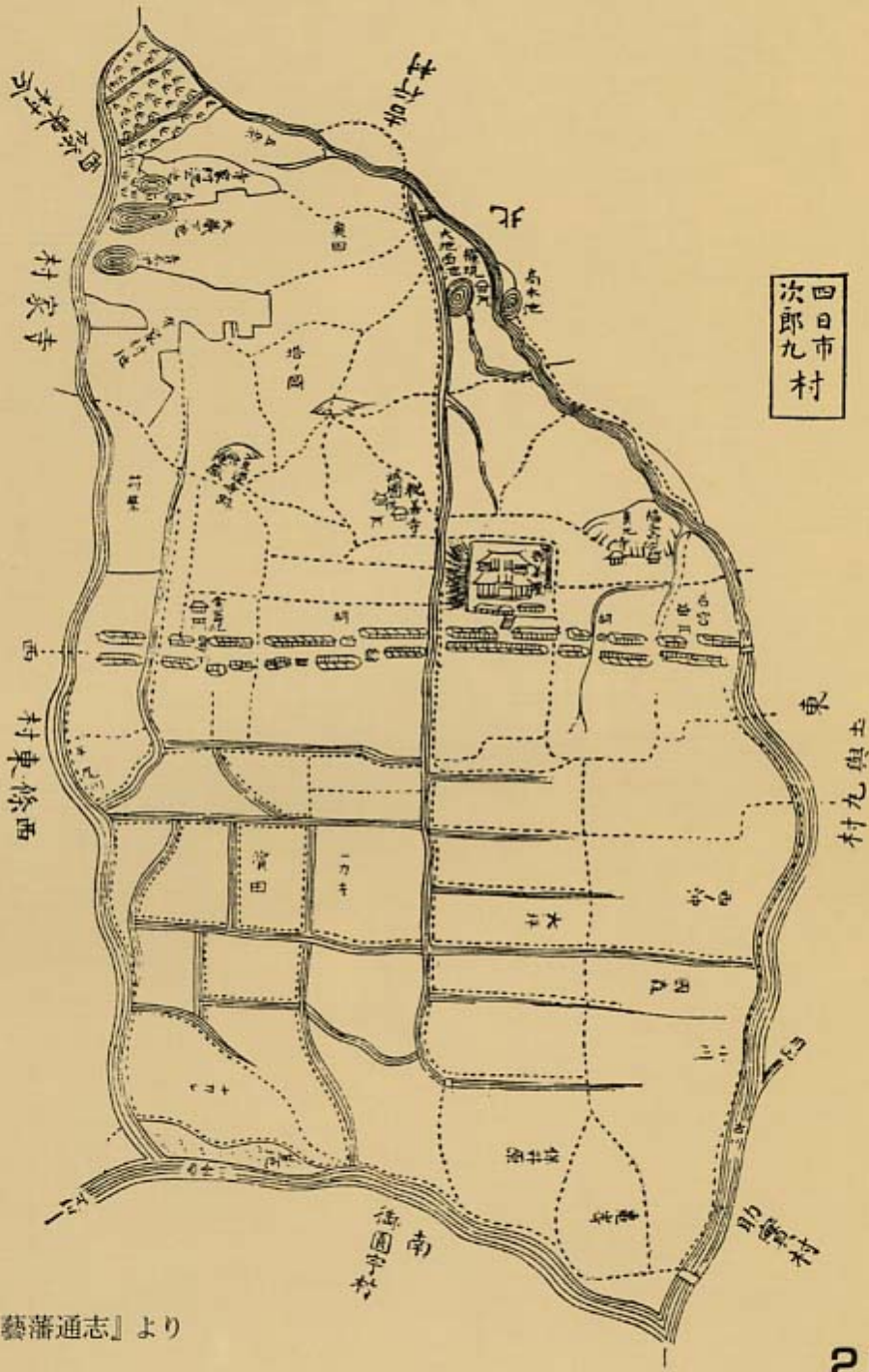


探訪 西條 四日市遺跡



『藝藩通志』より

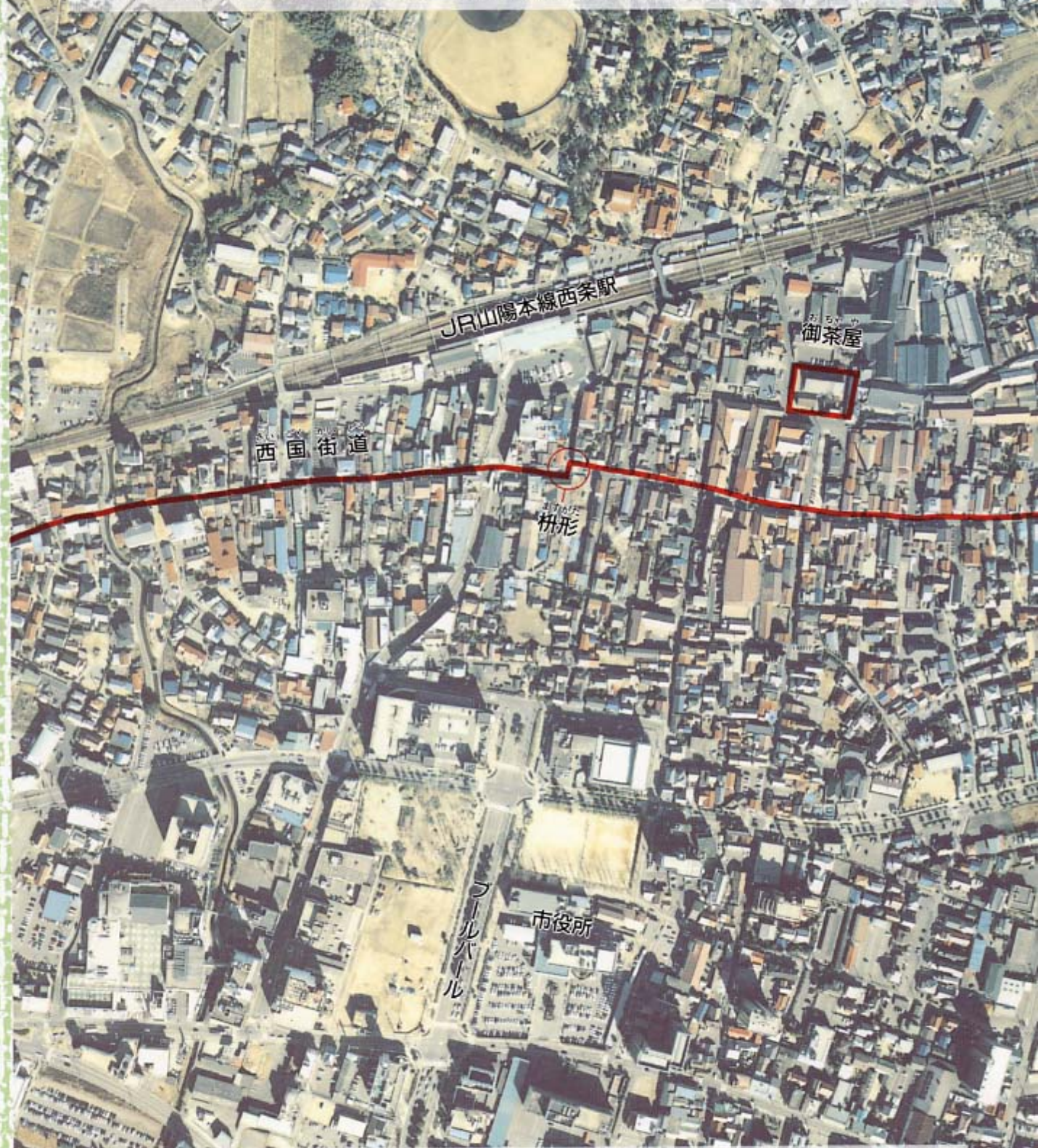
2004

財団法人東広島市教育文化振興事業団

歴史と文化を生かして成長する街

四日市遺跡は、JR山陽本線西条駅前一带に所在する遺跡です。この地域は東広島市の玄関口であり、商業・業務の中心でもあります。また、市のシンボルロードであるフルバール（都市計画道路西条駅大学線）の始点にもなっています。

平成10年度から西条駅前土地区画整理事業に伴って、発掘調査を実施しています。



発掘調査の結果、弥生土器・須恵器・古瓦なども見つっていますが、江戸時代の遺構と遺物が最も多く出土しています。この地では、弥生時代から数千年にわたって人々が暮らしていたようです。

また、東西方向に延びる西国街道に対し、南北方向に延びる石列や溝によって区切られた様子は、「間口が狭く奥行きが長い」という近世の町割の特徴をよく示しています。

遺跡名になっている“四日市”とは、中世に開かれた荘園内の市場に由来するものと考えられます。『藝藩通志』によると天正年間（1572～1592）に市駅になったと記されているなど、文献資料によれば中世末には町があったことがわかります。その後、「慶長4（1599）年四日市の町割」（『鶴亭日記』）を経て、寛永年間に「西国街道（旧山陽道）」が整備（道路幅を2間半（約4.5m）とした）され、宿場町として急速に栄えていったと考えられます。



この写真は、四日市遺跡から出土した遺物です。左（上・下）は中国から渡ってきた中世末頃の輸入陶磁器で、右は近世初期の唐津焼です。「四日市」がいつ頃成立し、発展していったかを見てきた証人でもあります。



掘り出された四日市

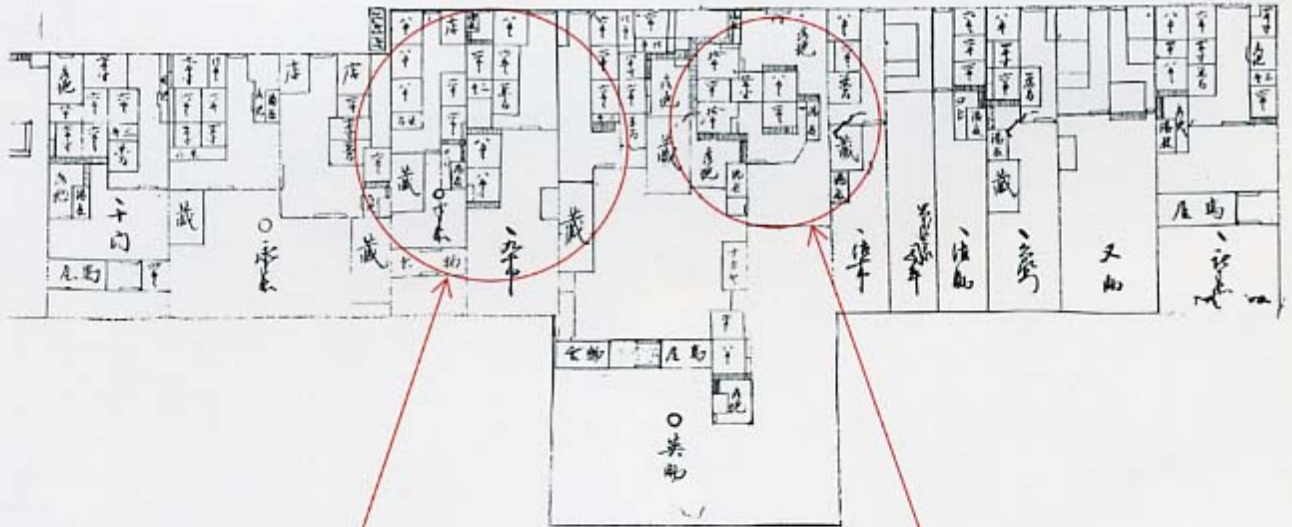


謎の「布掘り遺構」



溝によって区画された町並

竹内家文書「四日市街路家並絵図」
(広島県立文書館蔵)の一部を引用



絵図にそっくりな遺構



溝と礎石



土蔵跡



巨大な礎石



炉跡



焼土 (火事の後処理?)



醸造遺構 (お酒や油などを搾る装置?)



排水溝



埋甕



埋桶



炭のつまった土坑

西国街道(山陽道)往來の図



芸備地域の近世山陽道行程模式図
 (広島県立歴史博物館『近世芸備の山陽道』より)



こうていき
 『行程記一山陽道 安芸国賀茂郡西条四日市～備後国御調郡尾道』
 (山口県文書館蔵)

宿場では、どれだけ多くの人と物が行き交ったことでしょう。

西国街道を通じて全国から運ばれた陶磁器は、九州の肥前(伊万里・唐津など)、中国地方の萩・石見・備前、関西では堺明石のすり鉢・京・信楽・淡路、四国の砥部、東海の瀬戸・美濃などです。この他、地元の小谷焼や原村焼(素焼きの土器)などが出土しています。





探訪 西條 四日市遺跡

平成 16 年 3 月 30 日

発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団/文化財センター
☎739-0025 東広島市西条町馬木541-1
TEL (082) 425-3880 FAX (082) 425-3882

印刷 電子印刷株式会社
☎730-0853 広島市中区堺町1丁目1-5